

基本目標5 環境豊かで快適な住みよいむら

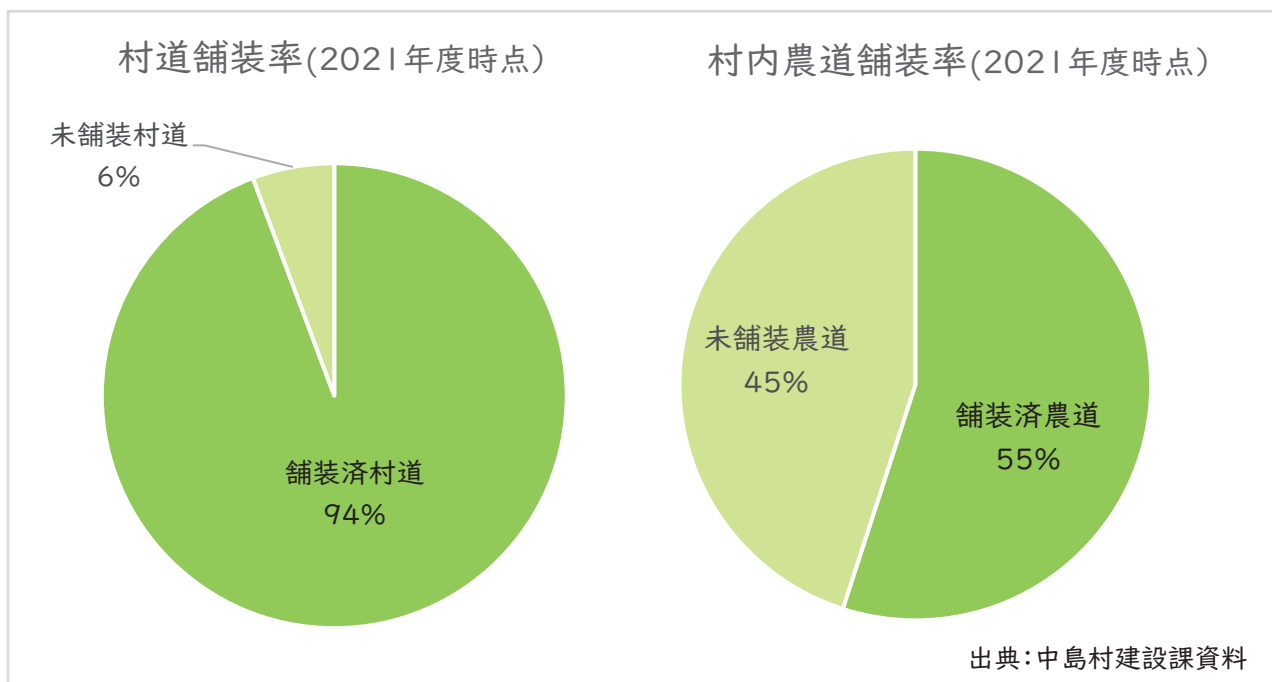
分野⑱ 道路	施策29 道路の整備
分野⑳ 上下水道	施策30 簡易水道施設の維持管理
	施策31 農業集落排水処理施設の維持管理
分野㉑ 公園	施策32 童里夢公園の整備・活用
	施策33 農村公園及び地区公園の整備
分野㉒ 住宅	施策34 住宅環境の整備
分野㉓ 公共交通	施策35 地域交通体制の充実
分野㉔ 環境	施策36 環境への取り組み
分野㉕ 移住・定住	施策37 移住・定住の促進
	施策38 移住・定住環境の整備

施策29 道路の整備



現状と課題

- 村民の快適性と利便性を確保するため、老朽道路・未整備道路の改良、狭あい道路の解消を進めていく必要があります。
- 通学路の安全を確保するための歩道整備及び幅員確保が十分でないため、今後も通学路の安全確保に取り組む必要があります。
- 県道棚倉矢吹線の村内バイパス化(中島北工区)の早期着工が課題となっています。
- 農業用道路については未だ4割以上が未舗装となっています。農耕作業の安全性と効率性を図るため、また、今後も農業が村基幹産業として発展し続けるために農業用道路の舗装化が必要です。



今後の方針

- 幹線道路の整備を進め、村道の改善を図るとともに、狭あいな生活道路の整備について検討します。
- 通学路安全点検をもとに関係機関と連携しながら歩道(通学路)の対策を検討します。
- 県道棚倉矢吹線バイパス(中島北工区)について、県と協力し早期完成を目指します。
- 農道の整備必要路線については、農道利用者の要望や農道長寿命化事業計画を基に、計画的に舗装整備を進めていきます。
- 村管理の道路・橋梁の維持管理を行います。

主な取り組み

事業名	事業内容
道路の整備	幹線道路及び生活道路について整備を進めます。
歩道(通学路)の整備	関係機関と連携し、通学路安全点検で出た要望を踏まえ、随時対応していきます。
県道(バイパス)整備の推進	県道棚倉矢吹線バイパス(中島北工区)について、県と一体となって整備を進めます。
農道長寿命化事業	未舗装の農道を農道長寿命化事業計画に基づき、舗装を進めます。
道路・橋梁の維持管理	村管理の道路・橋梁について、定期的なパトロールを実施し、必要箇所の維持補修を行い、安全を確保します。

施策の目標

目標名	現状値(2021年度)	目標値(2032年度)
村道舗装率	94.0%	98.3%
農道長寿命化事業計画に基づく農道舗装率	55%	90%

施策30 簡易水道施設の維持管理



現状と課題

●村の水道は白河地方広域市町村圏整備組合より供給されている水を迎久保地区にある第三配水池で受水し村内全域に配水、さらに、町畑地区にある第三水源（井戸水）からの水を浄水場で処理した水も配水しています。近年は施設、機械設備及び水道本管の老朽化により維持費が増加傾向にあります。

●今後も安定的に給水するために、施設・機械設備及び水道本管の補修・更新を計画的に実施していく必要があります。



第三配水池



第三水源



浄水場

今後の方針

- 施設・機械設備及び水道本管を計画的に補修・更新し、経営の健全化及び安定的な水道事業の運営を目指します。
- 災害に強い施設・管路の整備を目指します。

主な取り組み

事業名	事業内容
簡易水道施設の維持管理	簡易水道施設の機能を十分に発揮し、水道法の水質基準に適合した水を供給するために、水道施設の維持管理業務を適正に行います。
施設機器等の計画的な更新	老朽化した施設機器等を計画的に更新します。
水道本管等の漏水調査・更新	水道本管等の漏水調査を計画的に実施します。また、老朽化が激しい箇所については水道本管等の更新工事を検討します。
第三水源（井戸水）及び浄水場の維持管理	災害時などの有事に備えて施設機器の維持管理を行います。

施策の目標

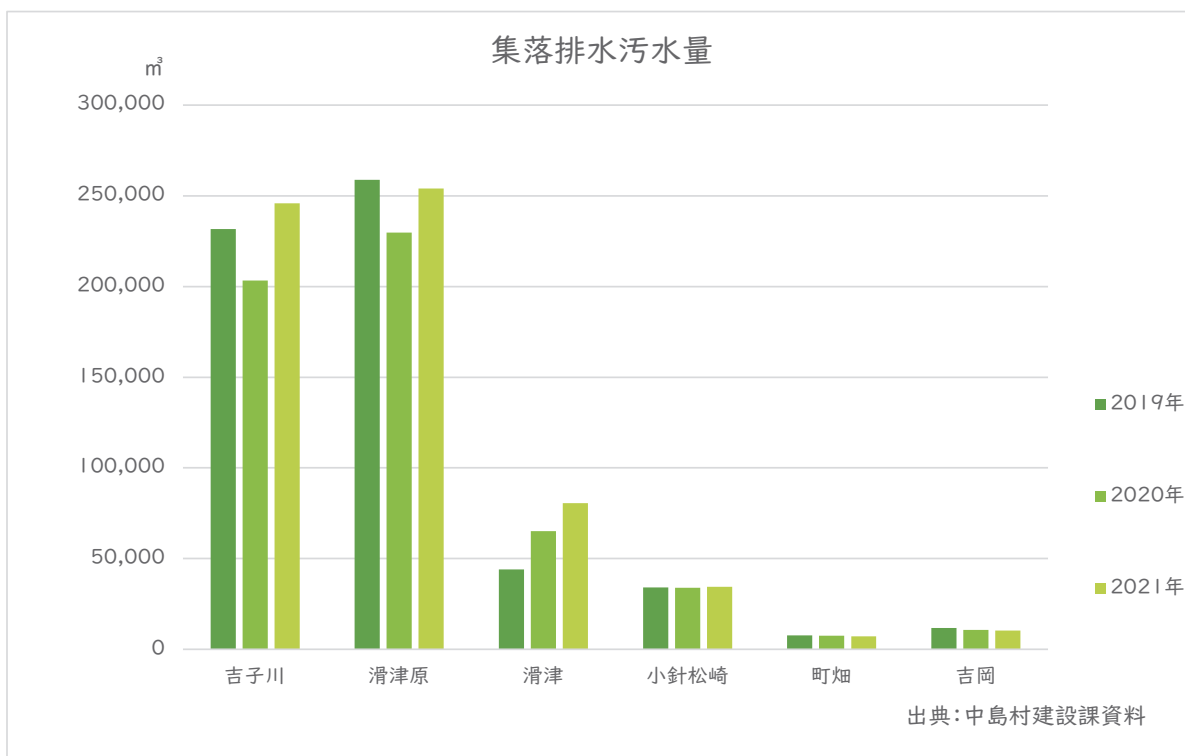
目標名	現状値(2021年度)	目標値(2032年度)
漏水調査の実施	9%	100%
水道本管(石綿管)の更新	0%	15%

施策3 | 農業集落排水処理施設の 維持管理



現状と課題

- 村では吉子川・滑津原・滑津・小針松崎・町畑・吉岡の6箇所に農業集落排水処理施設を設置し、家庭等から出る下水を適切に処理することで、生活環境の保全が図られています。しかし、農業集落排水処理施設の供用開始から既に20年以上経過しており、施設内の設備に経年劣化や不具合が生じていることから、維持費が増加傾向にあります。
- 不明水の流入により汚水量が増加し、処理するために必要な電気代等の費用が増加する要因の一つとなっています。



今後の方針

- 10年後も生活環境の保全が可能なように、農業集落排水処理施設の維持管理に努めます。
- 不明水流入の対策を実施します。

主な取り組み

事業名	事業内容
農業集落排水処理施設の維持管理	農業集落排水処理施設の機能を十分に発揮し、適切に下水を処理するために、施設の維持管理に努めます。
処理施設等機器の計画的な更新	処理施設内の機器の劣化や老朽化を調査し、施設機能の維持及び低コスト化を図ります。
不明水対策等の実施	不明水の流入が多い地区において、管路施設の改修等を行い不明水流入の抑制に取り組みます。

施策32 童里夢公園の整備・活用



現状と課題

●童里夢公園は、1997年の開園から25年が経過し、子どもから高齢者まで多くの来園者が訪れています。これまで、直売所(きらっしえ)の整備や複合遊具の設置に取り組み、村内だけでなく村外からも多くの来園者を集めています。しかし、トイレやバーベキュー広場など園内随所に劣化がみられ、今後も来園者に居心地よく安全に利用してもらうために計画的な修繕・改修が必要です。



今後の方針

●遊具や公園設備の点検を定期的に行い、計画的な修繕・改修に努めます。

主な取り組み

事業名	事業内容
遊具の点検、修繕	定期的に遊具を点検し、必要な箇所について修繕を行います。
設備の計画的な修繕	トイレ、街灯、その他構造物について、計画的な修繕に取り組みます。
遊歩道の整備	劣化した木製階段や舗装路について、計画的な改修に取り組みます。

施策33 農村公園及び地区公園の整備



現状と課題

- 村には8つの農村公園と4つの地区公園が設置してありますが、特に農村公園については供用開始から30年以上が経過しており、遊具の劣化や利用者数の減少がみられます。利用者の安全確保と住民要望により、いくつかの公園では劣化した遊具の撤去を実施しています。
- 農村公園の利用状況と劣化状況について引き続き調査し、地域住民が安全に利用できるよう努めていく必要があります。

今後の方針

- 遊具が利用可能な公園については、行政区と連携して利用状況、遊具の劣化状況を把握し維持管理に努めます。
- 遊具の老朽化が進んでいる公園については、計画的に遊具の撤去を進め、利用者の安全確保に努めます。
- 少子高齢化の社会情勢を鑑み、住民の意見等も取り入れながら、今後の農村公園及び地区公園のあり方を検討します。

主な取り組み

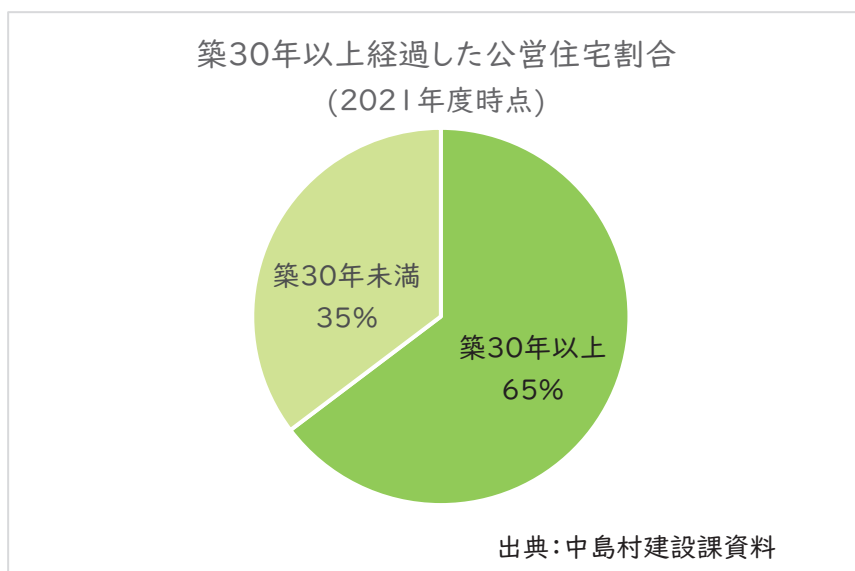
事業名	事業内容
農村公園・地区公園の活用	住民要望を取り入れながら、農村公園及び地区公園の今後のあり方を検討します。

施策34 住宅環境の整備



現状と課題

- 村の戸建て住宅に対し、地震による家屋被害に対する不安を解消するため、木造住宅耐震診断者派遣事業を行っていますが、引き続き周知していく必要があります。
- 公営住宅は、原山住宅、ニツ山住宅、御蔵場住宅の合計68戸あります。公営住宅には多くの方が入居している一方で、築30年以上経過しており、老朽化が進んでいます。安全・安心な住居の提供や新規入居者の入居斡旋のためにも、具体的な修繕計画を策定し中長期的な維持管理が求められています。



今後の方針

- 耐震診断者派遣事業が活用されるよう診断者派遣事業の広報を行います。
- 村営住宅の長寿命化を図り、計画的な修繕管理を行うことで、安全・安心な住居の提供を目指します。

主な取り組み

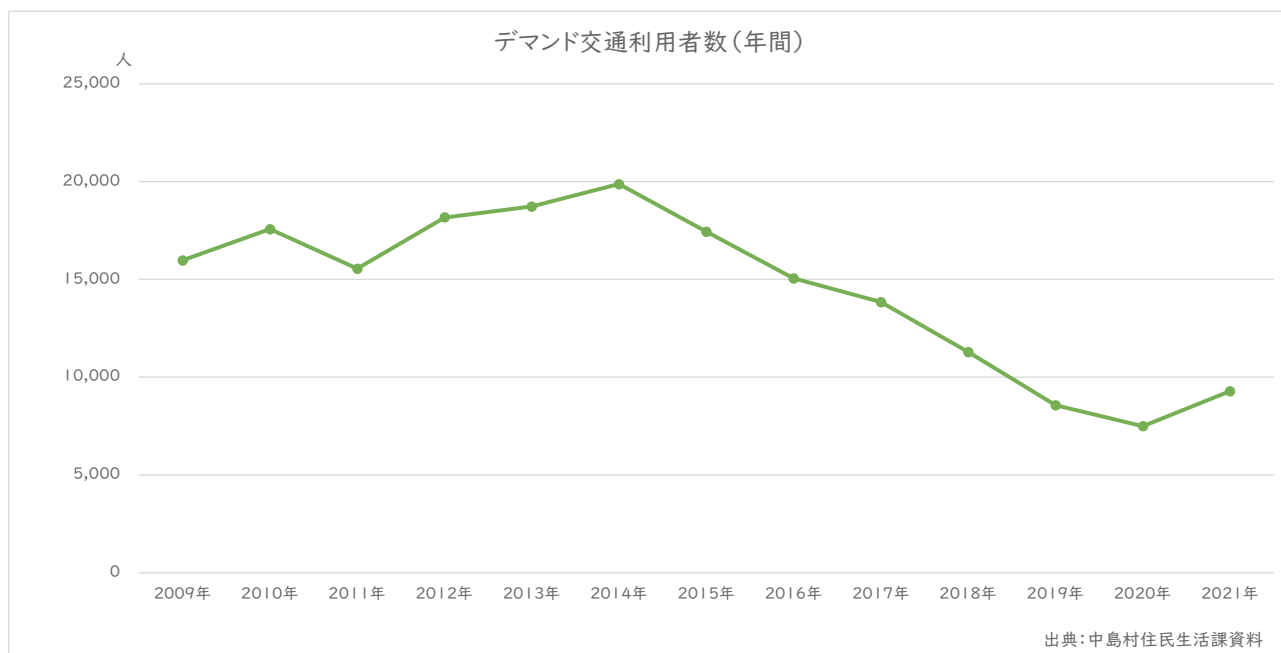
事業名	事業内容
耐震診断者派遣事業の活用	木造家屋居住者の地震被害に対する不安解消のため、耐震診断者派遣を実施します。
公営住宅長寿命化計画による計画的な修繕	公営住宅長寿命化計画に基づき、公営住宅の計画的な修繕等を行います。

施策35 地域交通体制の充実



現状と課題

- バスや電車といった公共交通機関が無いことから、2005年度からデマンド交通（乗合タクシー・スクールバス）の運行を開始し、現在も高校生の通学や高齢者等を中心とした村内や近隣への移動・外出手段として利用されています。
- 高校生のバス利用者は2014年度をピークに減少が続いています。乗合タクシーについては、新型コロナウイルスの感染拡大により一時的に利用者が減少となっていますが、2023年1月現在は回復しつつあります。利用料収入の減少が続いていることから、採算性も考慮した運営が課題となっています。



今後の方針

- 今後、高齢者の増加が進み、乗合タクシーへの需要が増加する一方、少子化で子どもが減少しスクールバスの需要は減少することが予想されます。利用者のニーズに応じて利用拡大を図るため関係機関が連携し、サービスの改善や運営見直しを行い、更なる利用促進策を検討します。
- 乗合タクシーの利用方法などを村ホームページやチラシなどで周知し、利用者の拡大を目指します。

主な取り組み

事業名	事業内容
住民への周知	広報やチラシ、ホームページ等を活用し、住民への周知を行い、利用者の拡大を図ります。
デマンド交通利用者アンケート実施	デマンド交通についてのアンケートを行い、利用方法をより良くするための意見をまとめます。

施策の目標

目標名	現状値(2021年度)	目標値(2032年度)
乗合タクシー利用者(年間)	2,894人	3,500人

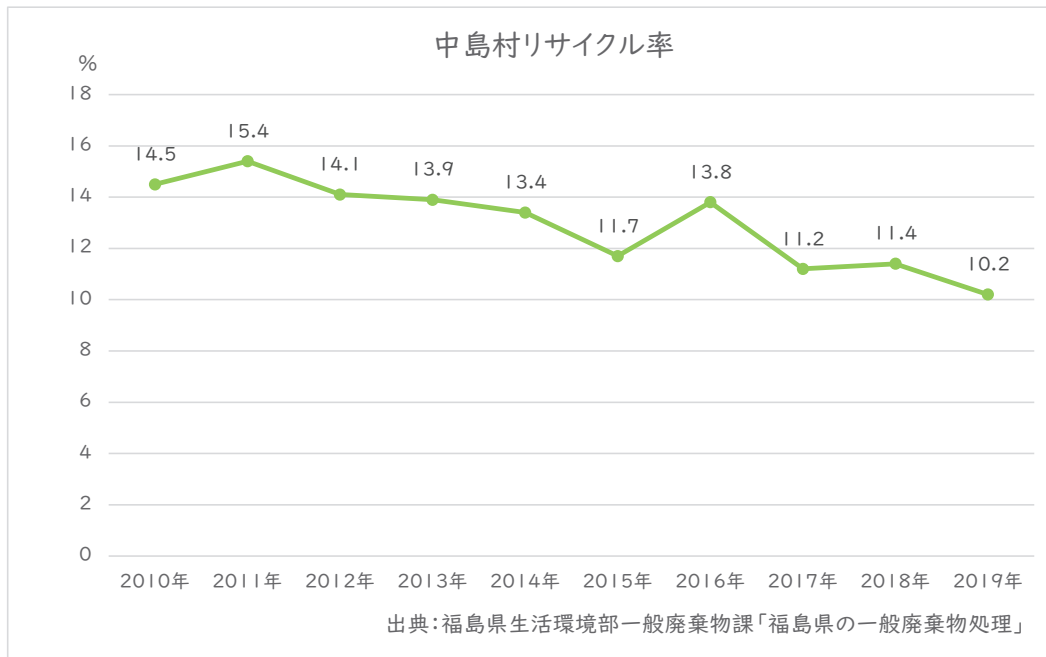
施策36 環境への取り組み



現状と課題

●2019年度の中島村の可燃ゴミの排出量(家庭系・事業系ごみ)は1日1人当たり667gで、県内で5番目に少なくなっています。リサイクル率は10.2%で、県内で28番目に高くなっていますが、全国平均の約20%は達成していません。さらに、ごみのポイ捨てや不法投棄も課題となっています。

●花と緑化木の村づくりを推進するために生垣整備に対する補助や、新築や出生があった世帯に対して、記念樹交付を行うことにより村の景観づくりを進めてきました。生垣整備や記念樹交付は村の景観形成のほかカーボンニュートラルにも関係する事業ですが、少子化などにより補助・交付件数が年々減少傾向にあります。



今後の方針

- リサイクルや正しい分別について周知を図ります。また、ごみのポイ捨てや不法投棄については、引き続き注意喚起の看板設置やパトロールを実施します。
- 生垣整備や記念樹交付などの緑化推進につながる事業を継続します。

主な取り組み

事業名	事業内容
ごみの減量化・リサイクルの促進	村民や企業に対し、広報紙、ホームページ、SNS等を通じて、リサイクルや正しい分別などについて周知を行います。
生垣整備事業	生垣整備に対して補助を行います。
記念樹交付事業	新築や出生があった世帯に対して記念樹を交付します。

施策の目標

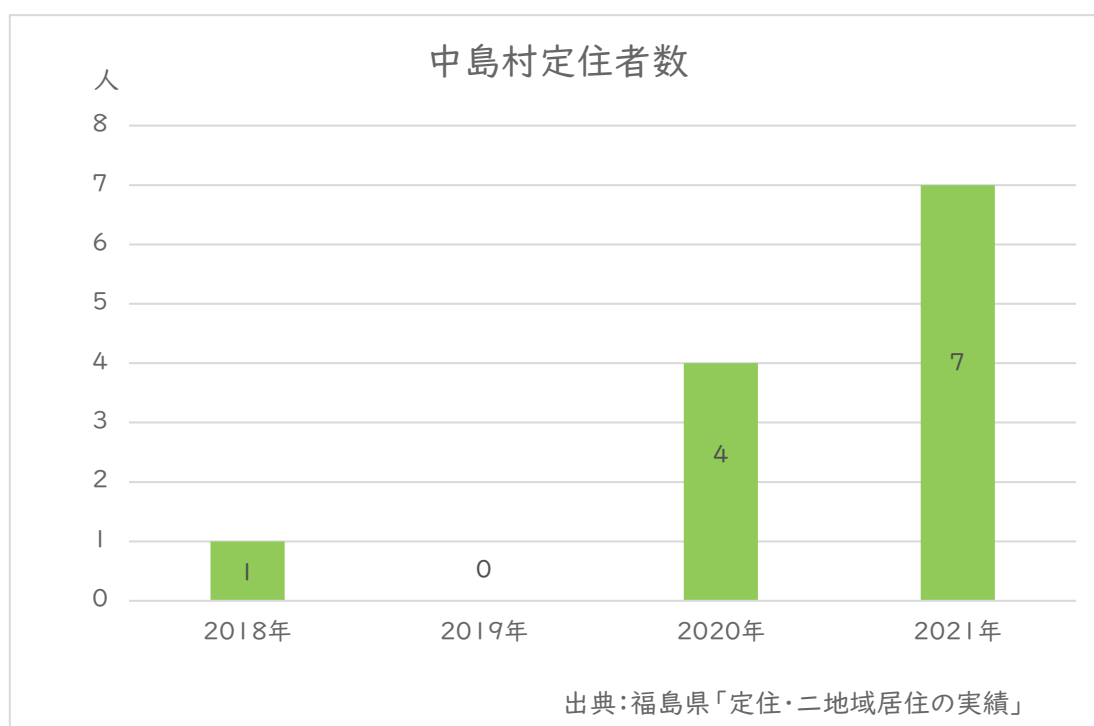
目標名	現状値(2021年度)	目標値(2032年度)
リサイクル率	10.2%	20.0%

施策37 移住・定住の促進



現状と課題

- 村の移住者数は県のデータによると増加傾向にあります。
- 移住・定住支援として、福島県移住支援金給付事業(わくわく地方生活実現パッケージ)を実施していますが、成果を挙げられていません。



今後の方針

- 移住・定住のパンフレットを作成・配布し、移住・定住者において村の情報発信を行います。
- 福島県移住支援金給付事業の周知を徹底します。

主な取り組み

事業名	事業内容
移住定住PRパンフレット作成業務	移住定住促進のために村の施策や魅力等を掲載したパンフレットを作成します。
福島県移住支援金給付事業 (わくわく地方生活実現パッケージ)	東京23区に5年以上在住の方、東京圏在住で23区に5年以上通勤の方(他条件有り)で村に移住した方に補助金を交付します。

施策の目標

目標名	現状値(2021年度)	目標値(2032年度)
移住・定住者数	7人	16人

施策38 移住・定住環境の整備



現状と課題

- 現在村には数十件の空き家がありますが、その全数や所有者情報等は把握できていません。今後空き家は増えていくことが予想され、近隣地とのトラブルや防犯上の課題があります。さらに、空き家の有効活用も検討する必要があります。
- 移住・定住促進のため、村では1993年から浦原ニュータウン分譲地の販売を開始し、2016年に全60区画が完売しました。2020年からは新たに原山分譲地の販売を開始しました。今後も分譲地の販売を促進するとともに、定住しやすい環境を整備していく必要があります。

今後の方針

- 空き家数、所有者情報を管理し、トラブルを未然に防げる体制を構築します。
- 空き家の有効活用のため、空き家バンクを導入し、空き家の減少に努めるとともに、移住者の獲得を目指します。
- 原山分譲地の完売を目指します。

主な取り組み

事業名	事業内容
空き家調査	空き家の位置情報、所有者情報等を管理できる体制を作ります。
空き家バンクの導入	空き家情報を広く発信し、村外からの転入者の獲得を目指します。
原山分譲地の販売	原山分譲地全区画の完売を目指します。